

ワークショップ 1

「配慮の表現・行動から見るコミュニケーションの諸相」

(趣旨)

対人コミュニケーションにおいては、相手との関係性を良好に保つために、敬意や親近性などに配慮した表現・行動を適切に選択することが求められる。そのため、待遇表現や配慮表現、ポライトネスなどに関する研究がこれまで広く行われてきた。本ワークショップでは、国語研究所の各共同研究プロジェクトで構築してきた言語資源として、方言コーパス、歴史コーパス、日常会話コーパス、学習者コーパス、在外資料などを取り上げ、それを活用した分析を通して、配慮の表現・行動の観点からコミュニケーションの実態を探り、そこに潜む問題点を検討することを目的とする。

(各タイトルと発表要旨)

≪木部暢子(国語研)≫(方言コーパス)

■タイトル

「配慮表現の地域差—日本語諸方言コーパス(COJADS)から」

■発表要旨

自然談話を資料とする『日本語諸方言コーパス(COJADS)』を使って、諸方言の丁寧表現(共通語の「です」「ます」に対応する表現)を形式面、運用面から分析することにより、配慮表現の地域差について考察する。

≪高山善行(福井大学)≫(歴史コーパス)

■タイトル

「対人配慮の歴史をどう捉えるか—「断り表現」を中心」

■発表要旨

配慮表現の歴史的研究は開拓期にあり、基礎的な記述を積み重ねていく段階である。本発表では、事例研究として、「断る」という言語行動を取り上げてみる。平安時代、鎌倉時代の文芸作品を資料として用い、他者からの依頼(命令を含む)を断る場面を抽出して観察・分析を行う。「断る」という行為は、どのような意味を持ち、どのような対人配慮が見られるのだろうか。その手がかりとして、今回は「断り表現」(前置き表現、可能表現、モダリティ表現など)に焦点をあてる。当時は断りの定型的表現が未発達であり、その分、断りの理由説明が重要であったと見られる。現代語と同様に依頼者の面子に対する配慮が確認できるのである。本研究は、文献資料による観察・分析によるものであるが、社会構

造や地域差の観点を導入することによる、他分野との連携の可能性についても述べてみたい。

≪小磯花絵（国語研）≫（日常会話コーパス）

■タイトル

「日常会話コーパスに見る配慮の表現・行動の多様性」

■発表要旨

本発表の目的は、「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」プロジェクトで現在構築中の『日本語日常会話コーパス』(Corpus of Everyday Japanese Corpus, CEJC)を対象とする分析を通して、聞き手との関係性や場面などに応じた配慮の表現・行動の実態を描き出すことである。CEJCは、日常生活で自然に生じる多様な場面・話者との会話を、映像を含めてバランスよく収めたコーパスであり、言語行動を映像まで含めて総体的に分析できるコーパスとなっている。ここでは、CEJCのうち整備が進んでいる150時間分の会話を用いて、スピーチスタイルや終助詞の選択、聞き手行動などの観点から、相手や場面による使い分けの様相を具体的に見ていく。

≪朝日祥之（国語研）≫（在外資料調査）

■タイトル

「ハワイ・アメリカに渡った日本人女性たちの日本語にみるポライトネス」

■発表要旨

本報告では、19世紀末以降、日本各地からのハワイをアメリカ西海岸に「呼び寄せ移民」として現地に渡った日本人女性たちのオーラルヒストリー資料で使われる日本語について、特に彼女たちの「語り」に見られるポライトネスを中心に考察する。彼女らを含む日系一世を対象としたオーラルヒストリー調査は1960年代以降のアメリカで本格化し、日系人もその対象となった。「呼び寄せ移民」は例えば写真花嫁たちも含むが、彼女たちのオーラルヒストリーの収集は日系史研究、女性学研究などでも盛んに行われてきた。

本報告では、先行研究の成果を踏まえ、主にハワイとカルフォルニアに渡った写真花嫁による口述資料を使用しながら、特に彼女たちが使用する言語表現（丁寧表現、出身地の方言、現地で習得した他地域の日本語方言、英語など）を手がかりにしたポライトネスのあり方を分析する。これを踏まえ、現地の日系社会に形成された社会構造の特性についても考察する。

≪野田尚史（国語研）≫（日本語教育）

■タイトル

「日本語学習者の配慮の表現・行動から出発するコミュニケーションの対照研究」

■発表要旨

日本語と他の言語の対照研究は、言語の構造の研究だけでなくコミュニケーションの研究にも広がってきている。しかし、コミュニケーションの対照研究はまだ言語の構造の対

照研究ほど多様なテーマが扱われるようにはなっていない。

この発表では、日本語学習者の配慮の表現・行動が日本語母語話者とは違う事例から出発し、そのような事例から日本語と学習者の母語のコミュニケーションの対照研究を行うことを提案する。配慮の表現・行動は日本語教育ではあまり指導が行われていないこともあり、語彙や文法などに比べて母語の干渉が起こりやすいと考えられる。学習者の表現・行動はコミュニケーションの対照研究を行うときに大いに参考になる。

この発表で取り上げるテーマは、「表現をやわらげるための配慮」「丁寧さを表すための配慮」「親しさを表すための配慮」「会話を展開させるための配慮」「話題の選択についての配慮」である。コミュニケーションの対照研究の難しさや研究方法についても述べる。